

春はセンバツから

校長 武井 正明

「荒れる春場所」とはよく言われるが、横綱大の里関の休場は無念だ。明らかに左肩を庇った取り口。完治して、万全の態勢での再起を待ちたい。

来週 19 日に開幕する春の選抜高校野球は、新潟県から何と二校が出場。日本文理と帝京長岡に思い切り暴れてきてもらいたい。

センバツ、か…。

私が初めて甲子園に行ったのは、大学入学が決まった 1986 年 3 月、第 67 回大会だった。受験が終わって、進学先がもし決まったら、ひとりで「旅」に行くのが、自分のささやかな「夢」だった。

もう受験勉強をしなくていい解放感と安心感。親も、長男が私大に行かず、地元で収まってくれた安心感で財布の紐も緩み、送り出してくれた。

当時よく聴いていたのが、さだまさし。普段のツアーと違って、時折小さな地方の町にふらっと行ってギター 1 本で、いきなりコンサートを始めるという「神出鬼没コンサート」をやっていた。歌とともに、彼のそういう生き方に憧れがあった。だから、ちょっとした「神出鬼没気分」で早春の関西に向かった。

やはり修学旅行での親しみやすさがあった。甲子園で桑田・清原が大きな目的なのに、宿泊は京都。行き当たりばったりで駅前の小さな旅館に泊まった。

JR の快速で大阪に行き、大阪からは、阪神電車で甲子園に向かう。

甲子園駅を降りると、球場に向かう人の波「春はセンバツから」空気はピンク色。蔦がびっしり絡まっている杜の向こうに KK コンビがいる…。

レフトスタンド上段から眺める。銀傘の上を春風が抜ける。他の球場とは全く違う。まさに「高校野球の聖地」浜松商相手に桑田真澄が投げ、清原和博が特大の一発をバックスクリーンに放り込んだ。11-1 の大差がついて、清原は最終回のマウンドにも上がった。

これが本当に 1 個下の同じ高校生なのか…。次元の違うふたりに圧倒された。

これまで私の野球部の教え子で、甲子園の土を踏んだのは 4 人。その人数に吉中野球部のメンバーが足される未来が、待ち遠しい。

吉中卒業生で文理の中軸を打つ彼が羨ましい。私が一生かかっても叶わない夢を、まもなく実現するのだから。可愛い妹が、兄の眩しい姿を目に焼き付ける日も近い。

両校とも全力を出し切って、頑張れ!! WBC が終わったら即センバツモードに突入だ!!

(本日発行の「吉田中学校だより第 24 号」と併せてお読みください)